

長距離歩行における車道側道の「歩きにくさ」に関する調査

佐藤邦弘*, 中村好男**

* 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

** 早稲田大学スポーツ科学学術院

キーワード: 車道側道歩行、歩きにくい歩行、長距離歩行

抄 録

日本における長距離歩行は、車道側道の歩行(以下、「車道側道の歩行」は「車道と縁石やさくなどで仕切られた歩道の歩行や車道脇の歩行」を意味する)を余儀なくされることが多い。車道側道の歩行には、自動車などの騒音や排気ガスへの暴露の問題、さらに歩道が設置されていても狭い幅員や横断勾配などの問題があり、多くの人が車道側道の歩行を忌避する傾向にある。

車道側道の歩行忌避要因および忌避の程度などを把握するためアンケート調査を行った。調査対象者は「中山道ウォーク」を行っていた長距離歩行のベテランである。「中山道ウォーク」における「歩きにくさ」の調査では、5段階評価のSD法により回答を求めた。またこれまでの長距離歩行体験に基づく調査では、車道側道歩行要因の中から好きな要因又は嫌いな要因を尋ねた。解析結果の概要は下記のとおりであった。

「中山道ウォーク」における「歩きにくさ」の解析結果:

- ・ 車道側道の歩行環境要因(説明変数)である「騒音」、「排気ガス」、歩道の「幅員」、「段差」、「横断勾配」、「木陰」、「電柱」のうち、排気ガス、幅員の狭さ、木陰がないことに対して、半数以上の人が最も悪い評点を与えた。
- ・ 7つの説明変数相互間には高い相関が見られた。主成分分析を適用したところ、第1主成分として“車道側道歩行環境の総合指標”が抽出できた。
- ・ 目的変数のうち、「歩きにくい」と「気持ちよくない」に対して、“車道側道歩行環境の総合指標”を説明変数とする有意($p < 0.01$)な回帰式が得られた。

長距離歩行体験に基づく忌避要因の解析結果:

- ・ 路面材料については、大部分の人が土は好きと答え、多くの人がU字溝の蓋の上を歩くのは嫌いだと答えた。また車道側道を歩く際、半数以上の人が嫌いなものに挙げたのは、歩道の段差、次いで、騒音、狭い幅員、横断勾配、排気ガスであった。路面の硬さについては2/3以上の人が嫌いなものに挙げなかった。

車道側道の歩行環境は改善の方向にある。騒音規制や透水性舗装、排水性舗装の施工増により、騒音は低減の方向にある。排気ガスは地球温暖化や大気汚染の観点から法的に規制強化の方向にあり、歩道の構造に関しては道路構造令により一定の幅員の確保が必要とされ、横断勾配は2%から1%へと改善の方向にある。しかし、ウォーカビリティ(歩行性、快適性)の点から、現状の改善程度では十分とは言えず、更なる改善が必要と考える。

スポーツ科学研究, 3, 93-103, 2006年, 受付日:2006年9月20日, 受理日:2006年11月28日

連絡先: 佐藤邦弘 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学研究科